

消防と人命救助にちなむ外国切手(3)

平岩道夫(切手評論家)



写真1



写真2



写真3

3月14日早朝、千葉県・野島崎沖の太平洋上で発生したリベリア船籍のケミカルタンカー「マースグサル号」の爆発、炎上事故は、火災発見から丸2日も火勢はおさまらず、警備艇などによる消火活動もできず、自然鎮火を待つありさまだった。

あらためて海上火災における消火活動のむずかしさを考えさせられる事故ということになるが、今月も前号に引続き、世界各国から発行された消防と人命救助活動にちなむ切手のなかから、ユニークな3枚を紹介してみよう。

まず(写真1)の切手は、1988年に北欧はフィンランドから発行された“消防隊150年”記念切手で、同国初期の消防車を描いた変わりダネ。

さて、車といえば(写真2)の切手は、オーストリアの“赤十字125年”を記念して発行されたものだが、ズバリ、救急車に

よる救助活動ぶりが描かれている。

切手図案の左下に“125年”を表わす“1863—1988”という数字も見られる。

(写真3)の切手は、上部に大きく国名が描かれている通り、カリブ海に浮かぶ国ジャマイカからお目見えしたもの。

1988年にこれまた“赤十字125年”にちなんで、記念切手2種を発行したが、この切手がそのうちの1種というわけ。

看護婦がタンカの上の傷ついた兵士たちの看護をしている様子が描かれている。

人命救助活動には忘れられない“赤十字”のマークも、切手の下部には入っている。もっともこれは当然といえば、それまでのことだが……。

それにしても、日本でも1日も早くこういった切手が発行されれば、もっと“消防”に関心を持つ人たちが増えるのに、残念なことである。